

令和3年度一般会計当初予算の特徴

1. 当初予算額 590億6,300万円（対前年度当初比▲4.1%）

※令和2年度当初予算額615億7,600万円

2. 市税収入 295億1,902万円（対前年度当初比▲7.7%）

○ 主な要因は下記のとおり

- ・ 個人市民税 対前年度当初比 ▲ 6.1%
- ・ 法人市民税 対前年度当初比 ▲ 33.9%
- ・ 固定資産税 対前年度当初比 ▲ 4.8%
- ・ 都市計画税 対前年度当初比 ▲ 3.5%

3. 歳入予算の特徴

○ 法人市民税の一部国税化に伴う減収に加え、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う企業業績や雇用環境の悪化、消費の減速などにより個人市民税、法人市民税の大幅な減収などにより、市税は前年度比で大幅な減額となりました。

また、地方特例交付金が新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金の皆増などにより増額、国庫支出金が、社会資本整備総合交付金の減などにより減額、繰入金が図書館建設基金繰入金の減などにより減額となりました。

- ・ 地方特例交付金 対前年度当初比 +1326.0%
- ・ 国庫支出金 対前年度当初比 ▲12.7%
- ・ 繰入金 対前年度当初比 ▲14.0%

4. 財源構造

- ・ 一般財源比率 63.3%（+1.0ポイント（前年度当初 62.3%））
- ・ 特定財源比率 36.7%（▲1.0ポイント（前年度当初 37.7%））

- ・ 自主財源比率 67.4%（▲1.0ポイント（前年度当初 68.4%））
- ・ 依存財源比率 32.6%（+1.0ポイント（前年度当初 31.6%））

5. 歳出予算の特徴

○教育費が、対前年度当初比 16.0%、20億6,500万円余の減となりました。

主な要因は、図書館施設建設事業の減などによります。

○土木費が、対前年度当初比 18.5%、15億7,100万円余の減となりました。

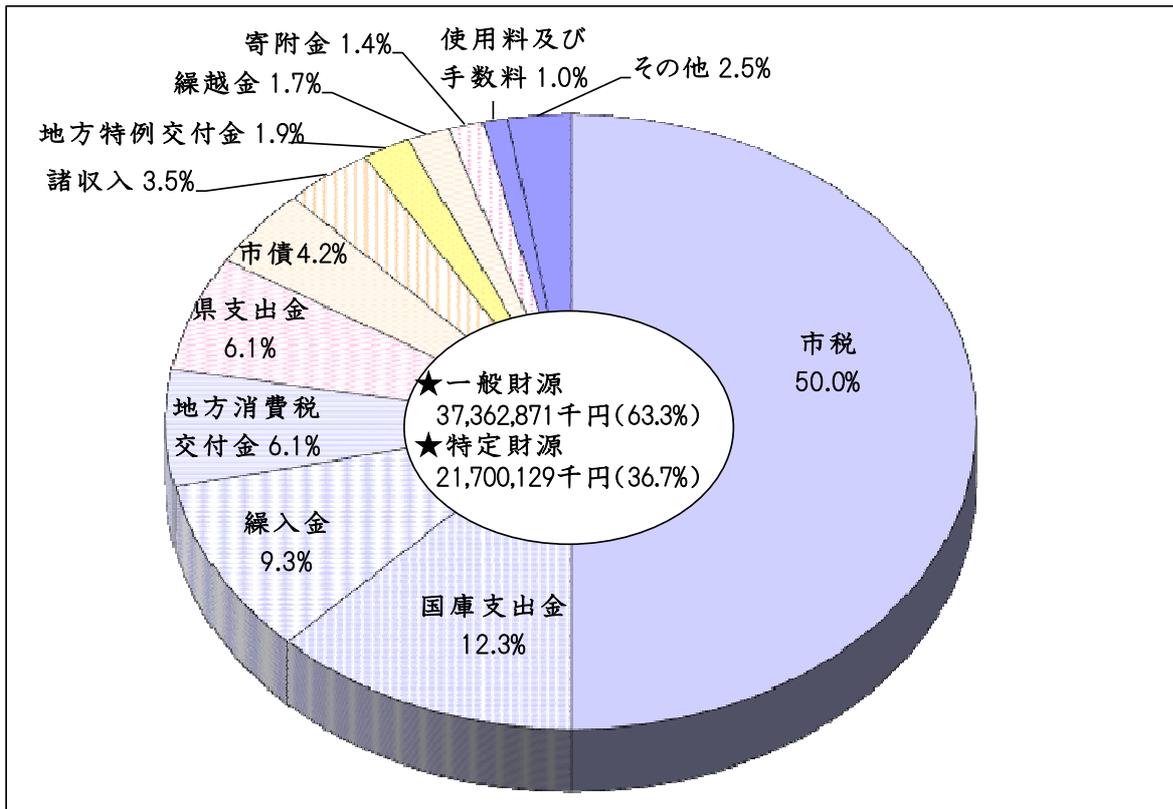
主な要因は、市営駐車場施設整備事業、小牧駅周辺整備事業の減などによります。

○総務費が、対前年度当初比 10.9%、5億9,700万円余の増となりました。

主な要因は、多世代交流プラザ施設管理事業、人件費の増などによります。

令和3年度小牧市一般会計当初予算

歳入総額 59,063,000千円



歳出総額 59,063,000千円

